

異分野を理解するには —今号を読んで—

喜多英治

筑波フォーラム編集委員（副委員長）

数理物質科学研究科電子・物理工学専攻教授

（きた えいじ／磁性工学）

学内の目では「私のプロジェクトと夢」で具体的な研究テーマの紹介が続いています。今まで組織の紹介は見る機会があったのですが、このように具体的なテーマを説明して頂く機会は少なく、大学のなかの研究の幅広さを再認識しました。

生物系の実験施設からは独創的な研究テーマを紹介して頂きました。食べ物としてしか認識していなかったホヤが動物のような植物のような不思議な生き物で、遺伝子実験の貴重な対象となっていることを知りました。同じく下田の臨海実験センターでは海洋生態学の研究が広く展開されています。菅平高原実験センターでは遷移と呼ばれる森林の発達を1世紀に近い時間スケールで観察しています。環境問題が深刻に議論されるようになり、樹木の役割が注目を浴びていますが、大学ならではの基礎研究が有効に利用される事を祈ります。陽子線医学利用研究センターも全国では珍しい施設であり、患部へのねらい打ちに様々な努力が成されています。

障害教育の分野は私にとって未知の世界ですが、具体例から専門用語の中身が多少とも理解できました。教育の分野で実例をもって紹介された、サイエンスとアートの融合教育も理科離れ対策の一つとして魅力あるプロジェクトに思えました。

世界遺産を対象とした専攻ができたとは聞いていましたが、どのような考え方が世界遺産に流れているのか理解するのに役立ちました。情報収集の研究分野もこのような過去から未来への情報の伝達や保護について寄与するものだと思います。

法人化以後、さらに教員の忙しが増したように思います。教育の基本である学生と過ごす時間が短縮される事を悔やむのは教員共通の思いです。

フォーラムの体裁も変わり、読みやすさに配慮された構成となりました。個人的には読みやすさと紙の質は反比例する様に思います。気軽に読むには、まだ少し堅すぎるかも知れません。